



2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(箇所)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	後期目標値に対する達成度(%)	1	2	-	-	3	-				
		25.0	50.0	-	-	75.0	-				

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)	単年度担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	-	-	A	-				

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)  
 公共性(公が実施する意味があるか)  
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)  
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)  
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)  
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	堆積物等の除去に多額の費用が掛かるため、処理処分の方法が難しい。	浚渫土を場外に搬出する費用等を考えても難しい、新たな方法を探す必要に迫られている。	新しい工法を取り入れ場内で処理をすることができ、工事費用を抑えることができた。
	平成19年度	堆積土砂等の量の算出が設計時点では把握がしにくい。処理処分するにも土の含水比によるので、積算も難しい。	池の立地条件が影響するので、浚渫土を場外に搬出するかしないかなどを考慮して、方法を探す必要に迫られている。	新しい工法を取り入れて場内で全てを処理をすること前提に算定したが、堆積土砂の量が算定より多く全てが池内で処理ができなかった。
	平成20年度	-	-	-
	平成21年度	-	-	-
	平成22年度	浚渫土砂を池以外に搬出しようとすると産業廃棄物となり、その処分に多額の費用がかかってしまう。浚渫土砂を池内でリユースすることにより、工事費用を抑えることができた。		
	平成23年度	未実施		
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	-	-
平成21年度	-	-
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	-	
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		